



2023年8月8日

各位

会社名： シンデン・ハイテックス株式会社
代表者名： 代表取締役社長 鈴木 淳
(コード番号：3131)
問合せ先： 取締役(管理本部管掌) 田村 祥
(フリーコール：0800-5000-345)

通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、以下のとおり、最近の業績動向を踏まえ、2023年5月11日に公表しました2024年3月期通期連結業績予想及び配当予想を、本日開催の取締役会において、下記のとおり修正することを決議しましたのでお知らせします。

記

●業績予想の修正について

2024年3月期通期連結業績予想数値の修正(2023年4月1日～2024年3月31日)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり当期純利益 |
|-------------------------|---------------|--------------|--------------|-----------------|------------|
| 前回発表予想(A) | 百万円 45,000 | 百万円 1,900 | 百万円 1,400 | 百万円 980 | 501円63銭 |
| 今回修正予想(B) | 44,500 | 1,200 | 570 | 380 | 192円55銭 |
| 増減額(B-A) | △500 | △700 | △830 | △600 | |
| 増減率(%) | △1.1% | △36.8% | △59.3% | △61.2% | |
| (ご参考)前期実績 (2023年3月期) | 41,924 | 2,242 | 1,032 | 897 | 448円80銭 |

修正の理由

当第1四半期連結会計期間において、2023年8月8日に公表しました「貸倒引当金繰入額(販売費及び一般管理費)計上に関するお知らせ」のとおり、販売費及び一般管理費において貸倒引当金繰入額として引当処理したことが主な要因となり、営業損益以下の指標において損失を計上しました。この度、足元の業績をふまえ、今後の業績の見通しにつき精査した結果、以下のとおりとなります。

販売面(売上高)は総じて以下のとおり、従来の当社の屋台骨である半導体製品分野及びディスプレイ分野を、前中期経営期間の「収益構造改革」において強化してきた、システム製品分野でリカバリーする構図となり、売上高はほぼ当初の想定どおりと見通しております。

・半導体製品分野及びディスプレイ分野

メモリ及び液晶モジュールの需給ひっ迫の緩和による顧客の積み上がった在庫の調整が、当初の想定よりも、さらに継続する見通しに加え、ディスプレイ分野における主要取引先の民事再生手続開始の申立てによるビジネス終息によって、当初の想定より減少すると見込みます。

- ・システム製品分野

部品供給難の緩和による顧客の増産のため、検査等の装置向け及びEMS（Electronics Manufacturing Service：製品の開発・生産を受託するサービス）が堅調に推移し、高性能GPU（Graphics Processing Unit）搭載サーバ機器の新規ビジネス獲得を見通しており、当初の想定より増加すると見込みます。

- ・バッテリー&電力機器分野

電源モジュールビジネス等の新規ビジネス開拓に取り組んでいるものの、当分野の主力ビジネスである家庭用ESS（Energy Storage System：電力貯蔵システム）向けが、当初の想定に対し、やや減少すると見込みます。

利益面では以下のとおり、売上総利益ベースにおけるビジネス自体の収益は、ほぼ当初の想定どおりの推移と見込んでおりますが、当該貸倒引当金繰入額の計上が主な要因となって、第2四半期までは経常損失のまま推移すると想定し、第3四半期以降に黒字転換すると見通しております。

- ・売上総利益

上記の販売面における記載のとおり、半導体製品分野及びディスプレイ分野の不調を、比較的利益率の高いシステム製品分野でカバーする構図となる見通しとなり、ほぼ当初の想定どおりと見込みます。

- ・販売費及び一般管理費／営業利益

販売費及び一般管理費は、当第1四半期に貸倒引当金繰入額として引当処理したことが主な要因となり、大幅に増加するものと見込みます。その結果、上表のとおり大幅な減益見通しとなります。

参考情報となりますが、貸倒引当金繰入額を除いた、その他の販売費及び一般管理費の合計は、ほぼ当初の想定どおりと見込みます。

- ・営業外損益／経常利益

営業外損益は、前年同期に対し、財政面におけるドル建資産と同負債のバランスの差異が小さくなったため、営業外損益における為替差損額が大幅に減少しておりますが、当第1四半期においても為替差損を計上しております。その結果、上表のとおり大幅な減益見通しとなります。

なお、現在のドル建資産と同負債のバランスの差異が、今後も同じ推移で進行すると仮定した場合、為替相場が円安に進行したときは為替差損額が増加し、円高に進行したときは圧縮されると見込みます。

- ・特別損益

該当事項はありません。

以上の結果、2023年5月11日に公表しました2024年3月期 通期連結業績予想を、誠に遺憾ではあります。上表のとおり修正するものであります。

なお、今回の取引先の民事再生の申立てに伴う当該売掛債権の貸倒引当金繰入額への計上は、一時的な要因であり、中期的な経営計画へ与える影響はありません。

したがって、2023年5月11日付「2023年3月期（2022年度）決算説明資料」11ページにおいて公表しました2023年度を開始年度とする新中期経営期間の中期経営目標（① 2025年度連結経常利益：15億円、② ROE：10%以上の継続）に変更はありません。

（注）上記の予想に関する記載は、本資料の作成時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績に関する事項は、今後の様々な要因により本記載数値と異なる可能性があります。



●配当予想の修正について

| | 年間配当金 | | | | |
|------------------------|----------|-------------|----------|---------------|---------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| 前回予想 (2023年5月11日発表) | 円 銭 — | 円 銭 0.00 | 円 銭 — | 円 銭 150.00 | 円 銭 150.00 |
| 今回修正予想 | — | 0.00 | — | 60.00 | 60.00 |
| 当期実績 | — | — | — | — | — |
| 前期実績 | — | 0.00 | — | 135.00 | 135.00 |

修正の理由

2023年5月11日に公表しました配当予想は、同日公表の2024年3月期 通期連結業績予想値における配当性向 30%を目安に決定しました。これは、商社の金融機能として運転資金の確保が欠かせず、手元流動性資金をある程度確保しておくことが必要ですので、重要経営政策のひとつである株主の皆様に対する利益還元と財政状態や今後の経営環境等を総合的に勘案したものであります。

今回の通期連結業績予想値の修正に伴い、誠に遺憾ではありますが、配当金を前回予想とほぼ同じ配当性向を目安に、90円00銭減配の60円00銭へと修正させていただきます。

「しっかり稼いで、しっかり配当」するスタンスに変更はなく、全社一丸となり挽回を図ってまいりますので、ご理解と一層のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

以 上